



県指定史跡

こうちょう
弘長供養碑および
付属供養碑

弘長供養碑は、真福院^{しんぶく}の境内にある。

真福院は、美杉町三多気、奈良県との県境近くに位置する真言宗の古寺である。国道368号から北に向かい、真福院へと延びる参道の両側には山桜の並木が続き、これは「三多気のサクラ」として国の名勝に指定されている。

真福院の創建は役行者とも伝えられるが定かではない。古くからの伝承によれば、かつて伊勢国司北畠氏の祈願所でもあったと伝えられる。供養碑は、桜の並木を抜けた先にある石段手前の石鳥居が目印である。鳥居に向かって右の小高い場所と左側の参道裏手に13基の供養碑が立ち並ぶ。中でも弘長元(1261)年の紀年銘のある碑は、文字や描線に剛健な鎌倉時代の特色がうかがわれる。地元で大洞石^{おおぼらいし}と呼ばれる凝灰岩製で、高さは2mを越える。正面月輪の中に胎藏界大日如来^{たいざうかいだいにな}の種子^{しゆじ}を大きく葉研彫りし、その下に蓮華の反花^{かえりばな}と二段框座^{にだんかまちざ}を印刻しており、これらのデザインは地域で特徴的に見られる。

その他、宝篋印塔^{ほうきやういんとう}には正安4(1302)年の銘があり、県下で最も古いものとされている。

(「広報津」平成21年7月1日号)

